

社会科学学習指導案

千秀小学校 丹野 一郎

- 1 日時 平成27年11月18日(水) 5校時
- 2 学年・組 第5学年1組 36名
- 3 小单元名 これからの食料生産 ～わたしたちの食生活について考えよう～
- 4 小单元目標

日本の食料生産が抱えている問題を調べ、食料を安定的に確保する必要性やこれからの食料生産のあり方について考えさせる。

5 小单元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日本の食料生産が抱えている問題を意欲的に追究し、これからの食料生産や食生活のあり方について関心をもって考えている。	日本の食料生産が抱えている問題について調べ、これからの食料生産のあり方や、安定して食料を確保していくうえで不安な点や大切な点について考えたり、ノートに表現したりしている。	食料の輸入量の変化や自給率の低さなど、日本の食料生産の現状や課題について、グラフや写真を通して適切に読み取っている。	日本の食糧生産の現状や課題を捉え、食料を安定して確保していくことの大切さを理解している。

6 単元について

(1) 単元設定の理由

本小单元では、日本の食料自給率の低さ、輸入依存度の高さを捉え、それに伴う課題を考えていくが、同時に輸入食材のおかげで、自分たちの豊かな食生活が成り立っていることも捉えさせ、「輸入は悪いことだ」と決めつけることのないように留意したい。輸入そのものが問題なのではなく、安全性が確認できない場合や国内生産とのバランスが損なわれてしまう場合などに問題となるという認識をもてるようにしたい。

また、本小单元は、これまでの食料生産の学習のまとめとして位置づけられる。食料の安定確保、食料の輸入の増加という問題は、国内で食料生産を続ける人々の姿を抜きにしては考えられない。実際に、米づくりの学習でも外国産米との競争について触れており、水産業の学習でも水産物の輸入の増加について触れている。これまでの学習とも結びつけることで、これらの問題をより具体的に、多面的に考えることができる。

本小单元では、複数のグラフが資料として出てくる。そこで、情報・視聴覚機器を効果的に使用することにより、よりの確に情報を読み取りながら考え、表現する力が育まれるかどうか、そしてそのことにより、一人ひとりの児童が主体的な学びを高めているかどうか検証をしてみたい。

また、本小単元のテーマである食料の安定確保について、児童にとってより身近な問題である給食の残飯や、総合的な学習の時間に行っている米づくりなども目を向け、改めて食料生産が、自分たちの問題（自分ごと）であることをしっかりと捉え、それに対して自分ができることは何か、自分の考えをもつことができるようにしたいという意図から、本小単元を設定した。

（２）児童の実態

本学級に児童は、自分の意見や考えになかなか自信をもてない児童が多く、とくに答えに確信のもてない問いに対する挙手が少ない。また、ノートには板書されたことや調べたことだけを写しているだけで、自分の考えを表すまでには至っていない。

５年生に進級してからも資料の読み取りは少しずつ進めてきている。グラフの縦軸・横軸の目盛が何を表しているか、さらに、図や写真から分かることや考えられることなどの指導などを丁寧に行ってきた。そのため、資料から分かる一つひとつの数値や事象を読み取ることはできるようになってきたが、その反面、比較したり関連付けたりと総合的に読み取ることは苦手であり、学習にあまり深まりが見られない。

今後、自分の意見や考えを表現したり、資料を総合的に読み取ったりすることを課題として指導していきたい。そうした課題を解決するために、情報・視聴覚機器をプラスすることによって、より効果的な学習活動が展開されることを願っている。

7 研究主題とのかかわり

☆栄区情報・視聴覚教育研究会 研究主題

一人ひとりの子どもが、主体的に学びを高めるための情報・視聴覚教育
～考える力・表現する力を育む情報教育のあり方～

→ その中でも今年度は、児童の思考を可視化できる手立てとして ICT がどのように寄与していけるかについて焦点を当てて研究を進めていく。

<テーマに迫るための手立て>

本学級の児童は、日頃から大型テレビや実物投影機を使って発表をしたり、教室用パソコンやパソコン教室で調べ学習を行ったりしている。そのことにより、児童の興味・関心が高まり、技術・技能が向上することは確かである。

さらに段階を進め、情報・視聴覚機器を活用し、児童の思考力・表現力を育成していく学習を行いたい。この研究は、自分の意見や考えになかなか自信をもてない本学級の児童にとっては、ぜひ取り組んで検証してみたいものとする。

そこで、テーマに迫るための手立てとして、「書き込み式ボード」を活用していきたい。「書き込み式ボード」は、四つ切りの大きさのホワイトボードの表面に1枚の透明シートがついており、その間に自由に資料や紙などを挟んでいくことができる。その表面にホワイトボードマーカー&イレーザーで何度も書き込んだり消したりすることができる。また、マグネット付きであり、黒板に掲示することもできる。

他教科の時間において、「書き込み式ボード」の活用を試みた。グループで一つのボードを囲んでグラフや図・写真を見合い、それぞれの疑問を述べ合ったり、意見や考えを書き込んだりする意欲的な姿が見られた。本小単元においても、「書き込み式ボード」を活用してグループで相談する時間を設け、お互いの意見や考えを交流させながら学習に深まりをもたせていきたい。

8 指導計画（本時3／6）

	本時のねらい	主な活動（○）／学習内容（◆）	評価規準
1	身近な食料の自給率や食料の輸入が増えた理由などを調べ、これからの食料生産をどのように進めればよいかについて関心をもって考えることができるようにする。	○身近な食べ物の自給率をグラフから調べたり、食料の輸入が増えた理由を資料から読み取ったりしながら、食料自給率の低さについて考え、学習問題を立てる。 ◆身近な食料の中には、外国からの輸入に頼っているものも多く、自分たちの現在の食生活は国内産だけでなく外国産の食料によっても支えられていること。	【関】もし外国産の食料が入ってこなくなったらどうなるか想像し、これからの食料生産のあり方について関心をもって考えようとしている。 【思】食料の輸入が増えてきたことを踏まえ、食料生産に与える影響や、これからの食生活あり方について調べる学習問題を考え、表現している。
2	豊かな食生活の背景にある食料輸入の影響について、さまざまな資料をもとに調べ、その課題について捉えることができるようにする。	○食料の輸入が増えることでどのような影響がもたらされるのか、グラフや写真を読み取って調べ、まとめる。 ◆食生活の変化とともに食料の輸入も増えたこと。また、食料の輸入の増加が国土や世界の環境に与える影響や、輸入が止まったときのリスクなどのさまざまな課題があること。	【技】食料の輸入が増えることの影響や課題について、グラフや写真などのさまざまな資料からの確に読み取っている。 【知】国内の食料生産に与える影響、環境への配慮、輸入が止まったときのリスクなど、食料の輸入に伴うさまざまな課題を捉えている。
3 (本時)	資料をもとに、さまざまな視点から自分たちの食生活について考え、これからの食生活のあり方について自分なりの考えをもつ。	○世界の食料不足の現状、将来の食料供給の見通し、食料の安全性などの視点から、これからの食生活のあり方や食料生産について考える。 ◆話し合いの内容を踏まえ、これからの食生活のあり方や食料生産について、自分なりの考えをもつこと。	【技】資料から食生活や食料生産についての問題点を読み取っている。 【思】自分たちの食生活と考え合わせて、それらの将来的なあり方について考え、表現している。
4 5 6	これまでの学習を振り返りながら、自分たちの今後の食生活についての考えを根拠となる事実とともに新聞にまとめ、お互いに意見を交流し合うことを通して、考えを深めることができるようにする。	○これまでの学習を振り返り、大切だと思ったことを一文にまとめ、根拠となる事実を選び、新聞をつくる。新聞の内容を交流し合い、感じたことや考えたこと、新たに気づいたことをノートにまとめる。 ◆日本の食料生産と自分たちの食生活のあり方はつながっており、日頃の食生活においてもそのような意識をもつことが大切であること。	【技】読み手のことを考えて、グラフや写真などの資料を活用したわかりやすい新聞紙面の表現をしている。 【思】根拠となるような事実を選び出して自分の考えをまとめ、他の子どもとの交流を通して、自分の考えが深まったり、新たに気づいたりしたことなどをノートにまとめている。

9 本時の指導

(1) 本時目標

食料生産に関する資料を調べることを通して、これからの食生活のあり方について自分なりの考えをもつことができる。

(2) 本時展開 (本時3/6)

学習活動 / 子どものつばやき (・)	指導上の留意点 (◎) / 評価 (*) / 情報・視聴覚機器 (☆)
<p>1 前時を振り返り、学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率は低いのかな。 ・お米を食べる人が減っているし、日本の耕地面積も減っている。 	<p>◎これまでの資料も掲示しておく。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">これからわたしたちは、どのような食生活をしていくことが大切なのだろうか。</p>	
<p>2 グループごとに、資料から分かることを読み取る。</p> <p>①栄養不足に苦しむ人々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界には栄養不足の人がいるんだ。 ・アジア (インド) やアフリカに多い。 ・日本って恵まれているんだな。 <p>②将来の食料の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと40年もしないうちに25億人も増える。 ・耕地面積は年々減っている。 ・いつか食料が足りなくなってしまう。 <p>③食料の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品は気を付けて選ばないといけないね。 ・輸入だけに頼るのもどうなのかな。 ・国産や地元の食品も大切だね。 <p>3 「地産地消」に関する資料を提示する。</p> <p>4 これからわたしたちはどのような食生活をしていけばよいか考える。(ノートに書く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しを減らす。 ・食料自給率を上げていかないとだめだ。 ・輸入が悪いわけではなく、安心して食べられるものであることが大切 ・地元の食材を大切にしよう。 	<p>☆①～③の資料から選択させて、「書き込み式ボード」に挟みグループで見合い、自分の意見や考えを書き込ませる。</p> <p>① (資) 配給された食料を食べる子どもたち</p> <p>① (資) 世界の栄養不足人口</p> <p>② (資) 世界の人口の変化の予想</p> <p>② (資) 一人当たりの耕地面積</p> <p>③ (資) 食料の安全性に関する新聞記事</p> <p>③ (資) 有機野菜の販売コーナー</p> <p>◎資料ごとに、いくつかのグループに発表させる。→ 掲示する。</p> <p>*資料から食生活や食料生産についての問題点を読み取っている。【技能】</p> <p>(資) フードマイレージ</p> <p>☆ (資) 地産地消…矢島農園のビデオ</p> <p>◎なかなか自分の意見や考えを書けない児童には、自分たちの食生活に関連付けて考えさせるようにする。</p> <p>◎数名の児童に発表させる。</p> <p>*自分たちの食生活と考え合わせて、それらの将来的なあり方について考え、表現している。【思考・判断・表現】</p>